



歓迎のご挨拶



明治大学校友会
鳥取県支部長

三 保 文 嗣



第 52 回明治大学
全国校友鳥取大会
実行委員長

石 谷 勇 雄

明治大学創立者の一人、初代校長岸本辰雄先生のふるさと鳥取へ、ようこそお出でくださいました。全国そして大韓民国からご来県の 900 余名の校友の皆様へ鳥取県支部・実行委員会を代表して心より感謝と歓迎を申し上げます。

本日ここに第 52 回明治大学全国校友鳥取大会を平井伸治鳥取県知事、深澤義彦鳥取市長、佐々木晃明治大学連合父母会会長、さらに岸本辰雄先生のご子孫岸本幸雄様をご来賓としてお迎えし、また明治大学から柳谷孝理事長、土屋恵一郎学長はじめ大学関係役職者各位のご列席のもと盛大に開催できますことは真にご同慶に堪えないところであります。

今年は、1881（明治 14）年の明治大学創立以来 135 周年という記念の年に当たります。また岸本辰雄先生のご生誕 165 周年、さらにはこのとりぎん文化会館の一角（先生が学んだ藩校尚徳館の跡地）に岸本辰雄先生顕彰碑を建立以来 10 周年の記念すべき年でもあります。

このような記念の年に全国の校友が相集い、岸本辰雄先生はじめ明治大学創立者の方々の偉業を称え、「明治はひとつ」を実感できる、そのような皆様の心に残る「鳥取大会」になればと願っています。

また大会開催に合わせて、明治大学史資料センターのご協力により「岸本辰雄先生パネル展」も開催致しております。明治大学草創期の貴重な資料を是非ご覧頂いて先人の苦勞に思いを馳せて頂ければと思います。

時あたかも錦秋の山陰路。「日本一の鳥取大砂丘」「日本遺産の三徳山三仏寺投入堂」「紅葉の大山」「ゲゲゲの鬼太郎と魚市場の境港」、足を延ばせば「宍道湖と国宝松江城」「神話のふるさと出雲大社」など山陰の豊かな自然と歴史と文化そして山海の味覚をお楽しみ頂ければ幸いです。

人口全国最少の鳥取県支部が岸本辰雄先生の万分の一の勇気を振り絞って鳥取大会開催に挑戦しました。何かと至らぬ点があるかと思いますがご容赦ください。

なお、大会準備中の 10 月 21 日に思いもかけぬ鳥取中部地震に見舞われ、一時はどうなるうことかと心配しましたが、皆様のご支援で無事開催できる運びとなりました。

あらためまして、大会開催にご協力ご尽力を頂きましたすべての皆様に心から感謝申し上げますとともに、ご参加頂いた皆様のご多幸とご健勝をご祈念申し上げます。



明治大学校友会

会長 向 殿 政 男

待ち望んでいた今年度の全国校友会大会が、鳥取県で開催される運びとなりました。ここに至るまでの多くの関係者の皆さまが、特に、三保文嗣支部長をはじめとする鳥取県支部や近隣支部の皆さまや関係する校友の方がたのご尽力に対して、深く感謝申し上げます。

母校明治大学は、現在、大変な人気を誇っており、受験生はもちろんのこと、現役学生、ご父母、校友の皆さまにも、大好評を以て受け入れられております。

本学の志願者数は、2007年度入試から10年連続で10万人を超えました。校友会といたしましては、地方からの志願者数を増やし支援するために、給付型奨学金「つなげ!“紫紺のたすき”奨学金」を創設し、地方出身者の経済支援を後押しするなど、組織力の強さをもって、支援しております。

大学は、「校友の皆様とともに、明治大学のブランドを強めていくこと」を重視して、ヒューマンネットワークの構築に取り組んでおり、54万人を超える校友が日本はもちろんのこと、世界中のあらゆるシーンで活躍しております。

本学の校友会ネットワークも韓国・台湾の支部に加え、海外の主要地域に在住・駐在する海外の校友団体「海外紫紺会」が19ほど設立されました。一方、本学は、世界の主要都市に拠点を構える都市型大学のネットワーク「World Cities, World Class University Network (通称 WC2)」に加盟し、世界の都心型大学ネットワークを通じた国際的な連携を図っています。特筆すべき点は、本学は国内にある全国の日本語学校が選ぶ日本留学アワーズ（留学生に勧めたい進学先）の大学文科系部門（東日本）で、2012年より4年連続で1位に選ばれていることです。

卒業生として、これらのことに対して評価をいただいていることは、大変光栄なことであり、名誉ある大学であることを強く実感させられます。これもひとえに、長年にわたる大学の教職員、経営陣、現役の学生等大学関係者の懸命なご努力の賜物ですが、更に加えて、校友である皆さま方のご活躍による社会的評価の結果であり、ここに敬意を表する次第です。

校友会の目的は、大学を支援し、賛助することです。その活動を通して卒業生同士の親睦を図ることです。その中で校友会の役割は、母校が発展・充実するよう、そして、後に続く学生が各人の夢を実現して社会に貢献できるように支援することです。私たち校友は、その活躍・貢献により、明治大学の名声を上げることに寄与しております。「明治ファミリー」として明治大学関係者が一致団結し、協力していくことが、私が掲げるスローガン「明治はひとつ」を意味しております。

全国校友会大会は、これからの校友会を益々躍進させていくことで、母校を支援し、母校に貢献することを誓う機会であります。今年は、ここ鳥取県で、“来なんせ、鳥取！”をコンセプトとしたこの大会を、是非とも盛り上げていきましょう。

鳥取大会の成功を、そしてご来場の皆さま、関係各位の益々のご多幸と母校明治大学のさらなる発展を、心より祈念申し上げます。



学校法人 明治大学

理事長 柳 谷 孝

『来なんせ、鳥取！～創立者 岸本辰雄先生のふるさとへ～』の呼びかけのもと、向殿会長、三保鳥取県支部長をはじめ、校友会の皆さまのご尽力により、第52回全国校友鳥取大会が盛大に举行されますことを心からお祝い申し上げます。また、校友の皆さまにおかれましては、日頃から明治大学に多大なるご支援・ご協力を賜りまして、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

さて、鳥取はご存知のとおり、創立者の一人、岸本辰雄先生の生誕地です。また今回の全国校友鳥取大会の会場は、かつて鳥取藩校尚徳館があった地であり、岸本先生が幼少期に勉学に励まれた場所でもあります。岸本先生とゆかりの大変深い地に、全国各地から校友の皆さまが集い、親しく語らうことができますことを大変喜ばしく感じております。

岸本先生は、尚徳館で学ばれた後に鳥取藩の貢進生に選ばれ、更にフランスに留学され、同地からの帰国直後から明治法律学校の設立に奔走されます。学校を設立し、近代法学の普及に努めようとする岸本先生の強い使命感と確固たる意志は、この地での学びが大いに影響していたものと思われます。

明治法律学校の創立時は、江戸時代の封建社会が終焉を迎え「藩」から「日本」へと社会的な視座が高まった大きな変革期でありました。今では、情報化やグローバル化の進展に伴い、その視座は「日本」から「世界」へと変遷しています。これからは、地球規模の視点から言語・文化・宗教などの多様性に向き合い、価値観の違いを許容し、世界人類の発展に寄与できる人材の育成を一層推進していく必要があると確信しております。

目下、明治大学では、入学定員管理の厳格化に伴う学費収入の減少、老朽化した施設設備の修繕など、教育・研究活動の基盤となる財政に大きな影響を及ぼす課題を抱えています。「権利自由」「独立自治」の建学の精神の下、『個』を強くするトップユニバーシティとして相応しい人材を社会に輩出し続けられるか。本学は、後の歴史に問われる重要な地点に、いま立っているものと理解しています。私は、本年6月に法人役員とともに、創立者の墓参を行いました。谷中霊園に眠る岸本先生の墓前にて、岸本先生の思いを更に発展させるべく教育・研究活動を支えていくことを心に誓い、山積した諸課題の解決に全力で取り組む決意を新たにしました。母校明治大学が世界に誇れる大学として輝き続けることができますよう、校友の皆さまにおかれましては、今後ともご支援・ご協力をお願いいたします。

結びに、校友会のさらなる発展と校友の皆さまのご健勝を心よりお祈り申し上げます。



明治大学

学 長 土 屋 恵 一 郎

全国校友鳥取大会の開催おめでとうございます。このために鳥取県の校友の皆さまが多く力を尽くし、見事に開催にまで至ったことに、深く敬意を表します。母校明治大学を絆にして私たちは時間を超えて集い、記憶のうちで青春をもう一度感じ取ります。肩を組んで校歌を歌えば、じわっと涙が出そうになって、「いやそれは知性が許さない」とぐっと我慢してもやっぱり涙が出る。それが校友大会です。帰ってこない日々への郷愁があり、今ここで、その日々をしっかりと抱いていることへの喜びがあります。だからこそ校友大会は素晴らしい。知性なんか放り出して、ノスタルジーに浸り、胸いっぱい青春を抱きしめよう。

全国校友鳥取大会には、もう一つ大きな意味があります。言うまでもなく、鳥取県は明治大学創立者三人のうちの一人、岸本辰雄博士の出生の地です。明治23年に書かれた帝国議会議員候補者列伝において、岸本博士についてこう書かれています。

「君嘉永五年を以て因州鳥取に生まれ藩の学館に入りて広く文武諸道を修め殊に天下に先んじて蘭式軍法を学び敏活勇毅を以て夙に一藩に名あり」

嘉永五年は1852年です。この嘉永5年6月にオランダ領インド総督は幕府に書簡を送って、アメリカ使節ペリーが開国を促すために日本に向かっていると報じたのです。岸本博士はまことに、明治維新へと向かう日本の黎明期に鳥取に生まれ青春の凜凜たる日々に入っていくのです。

さらに博士はパリ大学に学び、「仏国自由の空気中に起臥し且該国諸政事家と交わりしを以て大いに進歩主義を懐くも」と先の列伝には書かれています。またこうも言うのです。フランスの進取の気質を尊び、イギリスの沈着なる精神を重んじたと。それこそ、明治大学を作った精神でした。

岸本博士の社会と教育の考えは、博士の校長講話に現れています。博士は過去の封建的社会の従順さに批判の眼を向け、独立した人格を重んじて、学生の主体的な勉学こそ大事であると言っています。そして「放任主義」こそ、明治大学の教育方針であると言っているのです。面白いですね。現在の教育において、「アクティヴ・ラーニング」という主体的学びが大学教育の潮流になりつつありますが、岸本博士の「放任主義」はまさしく「アクティヴ・ラーニング」の先駆でした。

全国校友鳥取大会は、創立者岸本辰雄博士の思想に立ち返り、現在の大学教育の在り方に思いを馳せる機会になります。肩を組み、「権利自由の揺籃の」と歌うとき、その歌の輪の中心には、岸本博士の精神の若々しい花があるのです。

そのことを思い起こさせてくれる、全国校友鳥取大会と鳥取の校友の皆さまに改めて、感謝申し上げます。皆さま、心からありがとうございました。



祝 辞



鳥取県知事 平 井 伸 治

明治大学が明治14年に創立され、輝かしい135周年目を迎えられましたことに対し、まずもってお祝い申し上げます。この間、我が国の学問の発展や人材の育成に多大なる貢献をされました明治大学と、その教学を支えてこられました歴代の関係者の皆様、社会で活躍されてこられました校友の皆様に対し、深く敬意を表し感謝申し上げます。

その大いなる節目の年に、明治大学創立の祖であります岸本辰雄先生の御出身鳥取市で、第52回明治大学全国校友鳥取大会が、柳谷孝理事長、土屋恵一郎学長をはじめ全国各地、更には海外の皆様をもお迎えして盛大に開催されますこと、心よりお慶び申し上げます。鳥取県民を代表して歓迎申し上げますとともに、本大会を切り盛りしてくださいました地元の明治大学校友会鳥取県支部の皆様、厚く御礼申し上げます。

さて、初代校長の岸本辰雄先生は「明治大学の主義」の中で、「学問の独立、自由を保ち自治の精神を養ひ、人格の完成を謀ること」と述べられています。この言葉は建学の精神として、今日まで連綿として受け継がれ、この精神の下、数多くの校友の方々が政財界をはじめ、文化、スポーツなど各方面で我が国と地域の発展に限りない貢献をされてきました。

今、我が国は急速な人口減少、少子高齢化に直面し、地方創生にそれぞれの地域が乗り出しております。人材の育成や産学官連携など、大学を核とした地域の振興が急務です。岸本辰雄先生、更には宮城浩蔵先生、矢代操先生が、明治維新という歴史の転換期に、「個」の確立を通じて近代化を図るべきであるとの視点のもと、近代市民の育成を目指し、地域の未来、国の未来を担う若者を育てていく誓いを立てられました。その志こそ、現代の日本が核心において実現をしていかなければならないテーマとなっています。

現在、岸本辰雄先生に導いていただいたかのように、当県においては、毎年明治大学の学生が地域住民と交流し、地域活性化へ提言してくださるなど、県内に爽やかな風を送ってくださるようになりました。また、我が国の新たなエネルギー開発の要となるメタンハイドレートのコア貯蔵研究施設が明治大学により鳥取港に開設され、リオデジャネイロオリンピックには当県出身で明治大学大学院生の富田千愛選手がボート競技に出場されるなど、明治大学は、正に創立以来鳥取県と深く絆で結ばれた大学となっております。

これからも、鳥取県は、明治大学とともに歩んで行くことをお誓い申し上げます。

どうぞ校友の皆様には、学び舎のふるさと、もう一つのホームタウンとして、ゆったりとお楽しみくださいますようお願いいたします。

当県は、豊かな自然と美しい環境で育まれたおいしい食材の宝庫であり、「鳥取砂丘」や「秀峰大山」、「三徳山三佛寺」などの魅力ある名所旧跡を有する県であります。今、正に山陰を代表する味覚である「松葉がに」のシーズンであり、本大会に御参加の皆様には、この度の御来県を機に、鳥取県の多彩な自然・歴史・文化に触れていただきますとともに、「蟹取県」の食を是非御堪能していただければ幸いです。

結びに、今大会の開催に御尽力いただきました明治大学校友会鳥取県支部の皆様をはじめ、関係の方々に改めて深く敬意を表しますとともに、明治大学及び明治大学校友会のますますの発展と御列席いただきました皆様の御健勝を祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。



祝 辞



鳥取市長 深 澤 義 彦

第52回明治大学全国校友鳥取大会が多くの校友の皆様をお迎えし、盛大に開催されますことをお慶び申し上げますとともに、鳥取市民を代表して心から歓迎申し上げます。

全国各地の校友会の皆様におかれましては、国内外のあらゆる分野、そして地域社会の発展にも大きく貢献されており、そのご努力ご活躍に深く敬意を表します。

「来なんせ、鳥取！創立者 岸本辰雄先生のふるさとへ」のスローガンにありますように、岸本辰雄先生は、まさに本市が誇る偉人であります。

こうした由縁もあり、近年では、明治大学と本市の共催により、2004年5月に開催した写真展「明治大学創立者 岸本辰雄展」を皮切りに、2006年3月には明治大学と市教育委員会、市文化財団、市歴史博物館共催による「岸本辰雄と明治大学 鳥取出身士族の挑戦」展を、同年4月には「日本初の女性弁護士 中田正子」展を本市で開催いたしました。1940年に我が国で初めての女性弁護士となった中田正子さんは、明治大学女子部を卒業された後に、本市に法律事務所を開業され、鳥取県弁護士会会長を歴任されるなど、本市にゆかりの深い法律家でありました。さらに、この年5月13日には、校友会鳥取県支部主催により、今回の記念式典の会場でもあります、とりぎん文化会館の一角に、岸本辰雄先生の銅像・顕彰碑が建立され、除幕式が盛大に開催されました。

さて、我が国では、地方への新しいひとの流れをつくり、活力ある地域をつくる「地方創生」の取組が進められるなど、時代の潮流は大きな転換期を迎えています。

本市では、山陰東部圏域の発展の基盤をつくるため、2018年4月に「中核市」への移行をめざしています。併せて、「連携中枢都市圏」の形成をめざし、鳥取県東部はもとより兵庫県但馬地域など、より広域的な地域間連携を進め、圏域全体が発展するためのけん引役として、これから中心的な役割を担ってまいります。

皆様ご存知の観光名所「鳥取砂丘」周辺に、「砂の美術館」がございます。ここでは、「鳥取砂丘」の砂で制作した砂像を展示する、世界で唯一の屋内美術館で、世界トップレベルの砂像彫刻家による作品がご覧いただけます。今年度は、8月に開催されたりオデジャネイロオリンピックに因み、「南米」をテーマにしております。

また、本市の夏の風物詩でもある、毎年8月に開催される鳥取しゃんしゃん祭の「しゃんしゃん傘踊り」は、「世界最大の傘踊り」として2014年、ギネス記録に認定されました。

本市は、ユネスコ世界ジオパークネット認定の山陰海岸などの美しい自然、そして数多くの天然温泉、さらには二十世紀梨や松葉ガニに代表される特産品など、大変豊かな観光資源に恵まれた都市であります。本大会にご参加の皆様には、創立者の岸本辰雄先生のふるさとに思いを馳せていただきながら、本市の多彩な魅力や味覚を存分にお楽しみいただければ幸いです。

結びに、向殿政男校友会会長様をはじめ本大会開催にご尽力された皆様方に心から敬意を表しますとともに、明治大学校友会が「明治はひとつ」のもとにますます発展され、また校友会ならびに明治大学の皆様が建学の精神「権利自由 独立自治」を礎に、伝統を引き継がれながら新しい時代・未来に向けてご活躍されることを祈念申し上げ、お祝いのことばといたします。



祝 辞



日揮グループ
日本エヌ・ユー・エス株式会社

代表取締役社長 **岸 本 幸 雄**

第52回明治大学全国校友大会の開催を心よりお慶び申し上げます。私は、明治大学創立者のひとりである岸本辰雄の曾孫、岸本幸雄と申します。曾祖父がこの鳥取の地に生まれて165年、明治大学が創立されて135年にあたる本年、ゆかりの地での初めて開催される校友大会にご招待賜りましたこと、辰雄の子孫として大変感慨深く存じます。今次大会の開催にあたって多大なご尽力をされた鳥取県支部の三保支部長はじめ、明治大学の皆さま、大会運営関係の皆さまに心より御礼申し上げます。まことに有難うございました。

ご存知の方も多いと思いますが、曾祖父辰雄は鳥取藩の貢進生として東京に出て法律の基礎を身につけた後パリ大学に留学し、フランス共和制の法律を学んで1880年に帰国いたします。帰国した頃は、まさに近代国家としてのわが国の揺籃期であり、英国の立憲君主制、ドイツの絶対君主制、そしてフランスの共和制を学んだ者たちが、国の姿に関する熱き論争を繰り広げた時代であったことが知られています。そのような時代の中、人が生まれながらにして持つ「権利・自由」を掲げて、1881年、僅か30歳ほどの3人の若者たち、宮城浩蔵先生、矢代操先生、そして曾祖父が、パリ留学時代の先輩である西園寺公望卿など実に多くの方々に支えられて大学の前身である明治法律学校を立ち上げ、「法の支配」という近代普遍の理念の普及に尽力していきました。明治法律学校は創生期のわが国司法界に多くの有為な人材を輩出し、もってわが国の近代化に大きな足跡を残しています。曾祖父が仲間たちと作り上げた学校が、近代日本の礎を作ることに大いに貢献できたのであれば、末裔として大変うれしく、また誇りに感ずるところです。

以来今日まで、膨大な人数の卒業生ならびに関係者の皆さまのご尽力で、明治大学はわが国屈指の私立大学に育てていただきました。今の姿は、おそらく辰雄の時代には想像もしなかった規模であり、「人を育てることが国の基礎」と考えていた創立者たちの熱い思いを皆様のご尽力によって実現していただいたことに心より感謝申し上げます。さらに現在、明治大学は「スーパーグローバル大学創成支援」を受けて、「未来開拓力に優れたグローバル人材」の育成に力を注いでおられます。このプログラムによって明治大学が更なる国際的な発展を遂げられ、世界で活躍する有為多望な明治大学人を数多輩出し、より良い地球社会、人類社会の発展に大いに貢献されることを願ってやみません。

明治大学校友会は、この発展と国際的な貢献を支える最も大切な基盤と存じます。結びに、校友会の益々のご発展と、校友の皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げ、私のご挨拶とさせていただきます。